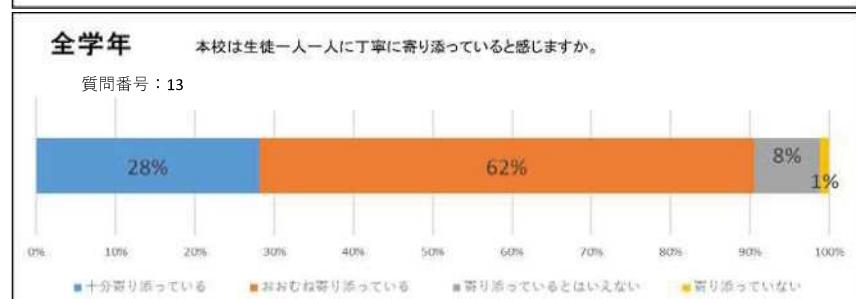
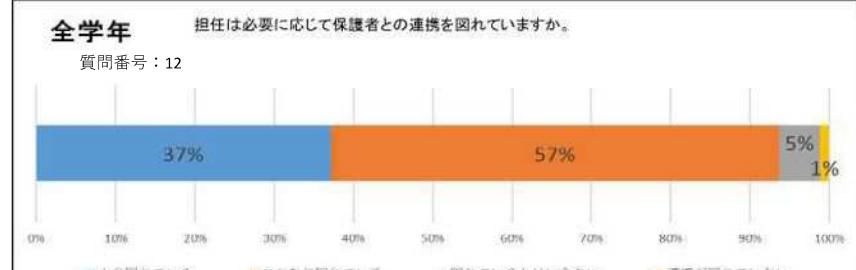
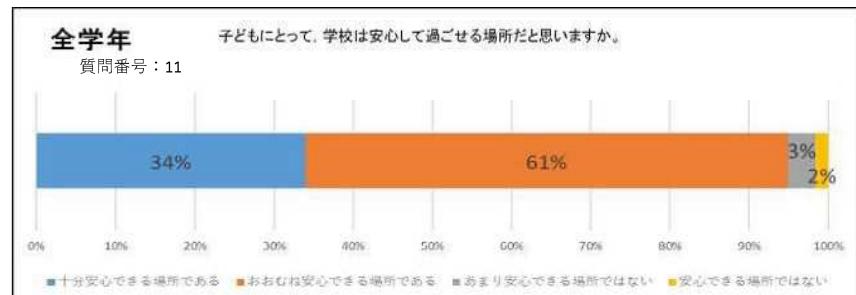
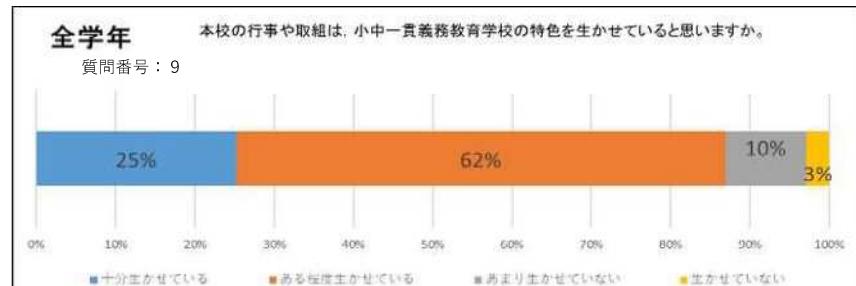
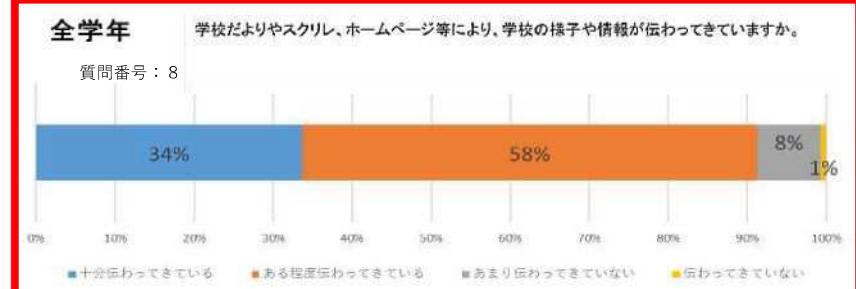
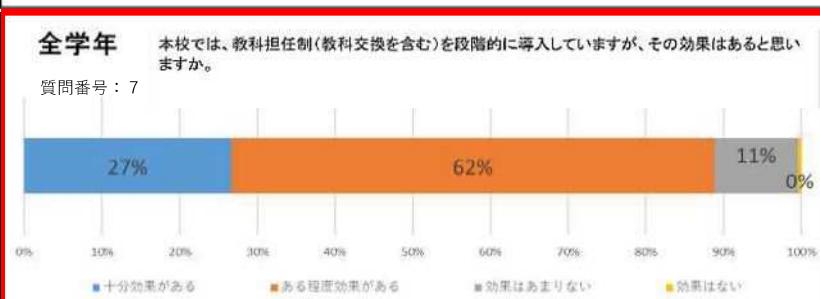
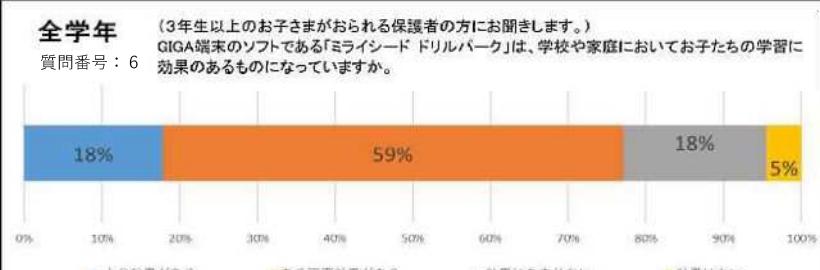
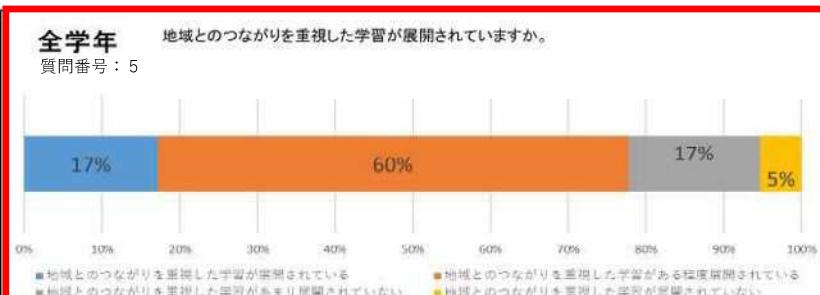
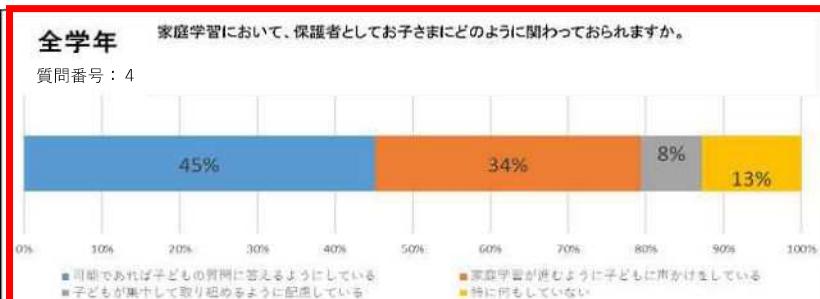
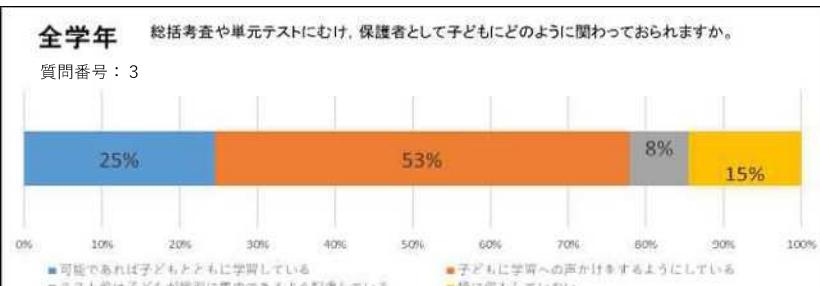
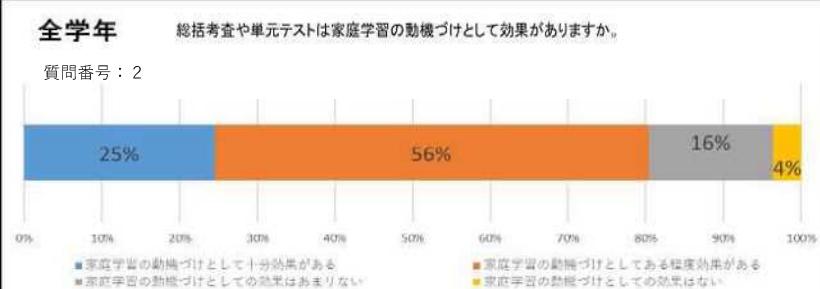


向島秀蓮だより

<保護者アンケート結果>

学校教育目標：「他つながる力」・「未来を拓く力」の育成

令和5年度 前期学校評価号
京都市立向島秀蓮小中学校
校長 上野 政弘



<保護者アンケート結果より>

令和5年度前期学校評価アンケートにご協力いただきまして、誠にありがとうございました。Microsoft Formsを使ったアンケートを実施し、多くの回答をいただきました。今年度の取組に合わせて質問内容を少し変更しているところもありますが、本校の特色ある取組や学校と地域・家庭とのつながりに着目して項目を精選し、お答えいただきました。どの質問の結果を見ましても、多くの方が選択肢の1・2番(十分～、おおむね～)を選ばれ、本校の取組にご理解をいただいていること、とても嬉しく思います。

質問番号4の「家庭学習において保護者としてお子さまにどのように関わっておられますか?」の質問では、90%近くの方が子どもの質問に答えたり、声かけをしたり、集中して取り組めるよう配慮したりと何らかの形で関わっていたいっていることが分かりました。本校では1学期末に「家庭学習」についての考え方を示させていただきました。生徒が家庭で自ら考え、課題や時間を選択し、決定することで、生徒の学習効果の向上と学びに向かう姿勢が確立され、「自ら進んで学ぶ力」を育むことにつながると考えています。これからも学校だけでなく家庭での学習の習慣をつけていくように、励ましのお声かけなどご協力よろしくお願ひいたします。家庭学習に関してご質問などございましたら学校までお尋ねください。

また、質問番号7の「教科担任制(教科交換を含む)を段階的に導入していますが、その効果はあると思いますか?」では、約90%の方が「十分・ある程度効果がある」と回答していただきました。ご存じのように、本校では開校当初から5年生以上は完全教科担任制を実施していますが、1・2年生といった低学年から教科交換授業を行うことで、学年やステージなど多くの教職員の目で生徒を見取ることができます。そして、3年生から専科教員を含めた教科担任制を実施することで各教職員に空き時間が生まれ、受け持った教科の教材研究に時間を費やすことができ、「働き方改革」の観点でも重要な取組になっていると実感しております。

今年度から開始された、データ配信アプリ「スクリレ」についてお聞きした質問番号8では、90%以上の方が「学校の情報が十分・ある程度伝わっている」とお答えいただきました。多くの保護者の皆様に「スクリレ」を登録していただいたことで、「学校からの情報がいつでもスマホから確認できるから便利です。」とのうれしい声をお聞きしています。また、学校では紙の使用量が大幅に減り、経費節減に役立っています。学校ホームページでは、各学年の取組を知りたい方のために画像などを毎日更新していますので、これまで通りご覧いただけます。

質問番号5では「地域とのつながりを重視した学習が展開されていますか」とお尋ねしました。約20%の方に「展開されていない」との回答をいただきました。1学期の時点では、どの学年・教科においてもまだまだ「地域とのつながり」を感じる取組が少なかったかもしれません。2学期以降は、8年生の「チャレンジ体験」や3年生の「稲刈り」、1・2年生による「保育園・幼稚園との交流活動」、ピア学年で取り組む貢献活動の「地域清掃」など生徒が主体的に地域とつながっていくような行事がたくさんあります。「秀蓮フェスティバル文化の部(展示)」(12月実施)では、今年度も地域の皆様に作品を募集し校内で展示させていただいたり、自由に観覧していただけます。このように、今後も各学年や学校全体で「地域とのつながり」を見据えた取組を行っていく次第です。12月には、後期学校評価アンケートの実施を予定していますので、ご協力よろしくお願ひいたします。

1. 「確かな学力」の育成について

○生徒回答結果

	年度	実現度(ベーシックステージ)				実現度(チームステージ)				実現度(ビジョンステージ)			
		よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない	よく出来ている	大体出来てない	あまり出来ない	出来ていない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
総括考查、単元テストに向けて、家庭学習を進めている。	R4(前期)	53%	26%	14%	8%	37%	43%	15%	5%	30%	46%	19%	5%
	R4(後期)	43%	30%	19%	8%	32%	43%	23%	3%	31%	46%	18%	5%
家庭学習は、授業内容と関連付けて行っている。	R5(前期)	59%	28%	9%	4%	30%	47%	16%	7%	25%	47%	20%	9%

* 「確かな学力」の育成に向けたアンケート項目変更について

これまで「総括考查・単元テストに向けて、家庭学習を進めている。」という質問を、R5 年度より「家庭学習は、授業内容と関連付けて行っている。」という質問に変更しました。本校の全国学力学習状況調査アンケート結果や学校評価アンケート、その他アンケート結果、全市共通テストの結果から、学習習慣や基礎学力の定着において、課題が多いことがわかりました。そのため、生徒が、総括考查・単元テストの得点に向けた「課題」として捉えがちであったことや、学校が課す画一的な（一律）「宿題」ができず悩みを抱え、自分に自信が持てずにいる生徒がいたことから、本校ではこれまでの課題を見直し、授業と家庭学習を一体的に捉え、生徒一人ひとりが自分で考え、自分で選択し、決定する「家庭学習」へ移行していきたいと考えました。もちろん、授業と家庭学習を一体的に捉える上で、知識技能の定着を重視する時など、デジタルドリルを課題として出すこともあります。具体的な取組は、『家庭学習のすすめ』に記載している通りとなります。

○分析

「家庭学習は、授業内容と関連付けて行っている。」という質問において、ベーシックステージは、肯定的な回答が昨年度（後期）より 10 ポイント以上の向上が見られたと同時に、否定的な回答においても、大きく減少したことがわかります。また、チームステージ及びビジョンステージにおいても、肯定的な意見が 7 割を超える結果となりました。これは、昨年度より、本校が研究を推し進めている「主体的な学びの実現」に向けた取組の効果だと捉えています。

まず、「反転学習」に取り組んでいることが大きな要因だと捉えています。教室で説明を聞き、それをもとに自宅で基本的な学習に取り組むことを「反転」させることで、授業内においては、対話的に学ぶ場面や応用力を身に付ける場面をこれまで以上に増やすことができます。

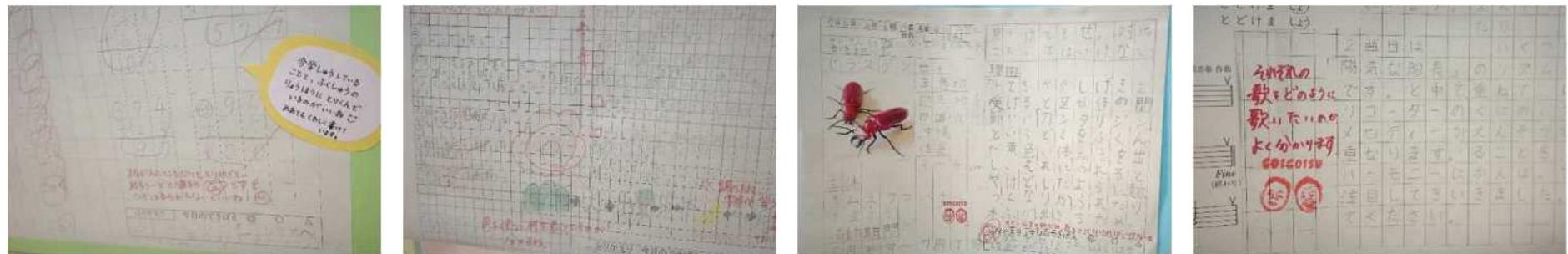
右のグラフは、「授業中に自分の考えを伝えたり、説明したりしている」や「他者と協働して問題解決をしている。」といった質問項目に対する生徒の回答結果となります。「生徒同士が対話しながら問題解決を行っている」と捉える生徒が昨年度向上した数値を安定させつつ、増加傾向が見られるステージもあります。

もちろん、これまでの一斉授業による授業がベースの生徒には、自ら進んで学習することはハードルが高く、自分で学習の第一歩を踏み出することに「大変」「しんどい」といった否定的な感情を持つ生徒も考えられます。そこで、授業者が、授業づくりの 1 つとして作成した動画や、授業と関連した Youtube 動画などを探し、GIGA 端末を活用し、生徒へ配信しています。生徒は、自らの意志でそれらの動画を視聴して授業に臨んでいます。「ただ見る」だけのように捉えがちではありますが、我々は、自律的学習者の第一歩を踏み出していると捉えています。

	年度	実現度(ベーシックステージ)				実現度(チームステージ)				実現度(ビジョンステージ)			
		よく出来ている	大体出来てない	あまり出来ない	出来ない	よく出来ている	大体出来てない	あまり出来ない	出来ない	よく出来ている	大体出来てない	あまり出来ない	出来ない
授業中に、自分の考えを友だちと伝え合っている。 (コミュニケーション力)	R4(前期)	64%	27%	8%	1%	43%	48%	7%	2%	37%	51%	11%	2%
	R4(後期)	57%	36%	5%	3%	46%	46%	9%	0%	37%	50%	11%	2%
	R5(前期)	59%	25%	8%	7%	40%	46%	10%	4%	41%	46%	10%	3%
授業中に、友だちといっしょに問題を解決している。 (コミュニケーション力)	R4(前期)	60%	29%	7%	4%	48%	40%	10%	2%	39%	50%	8%	3%
	R4(後期)	48%	37%	12%	3%	39%	52%	9%	1%	30%	56%	12%	2%
	R5(前期)	56%	28%	11%	5%	33%	51%	12%	4%	43%	45%	9%	3%
授業中に、自分の考えを説明している。 (発信力)	R4(前期)	51%	26%	17%	6%	27%	33%	32%	7%	15%	40%	38%	8%
	R4(後期)	39%	35%	19%	7%	20%	42%	31%	8%	20%	44%	33%	3%
	R5(前期)	45%	29%	19%	7%	19%	40%	33%	8%	25%	38%	29%	8%
授業中に、目的や場面にあわせて自分の考えが伝わるように説明している。 (発信力)	R4(前期)	48%	35%	13%	4%	24%	45%	25%	5%	15%	53%	26%	6%
	R4(後期)	39%	40%	17%	4%	20%	47%	31%	3%	21%	53%	22%	4%
	R5(前期)	45%	29%	20%	6%	19%	42%	35%	5%	21%	50%	25%	4%

次に、今年度3年生以上の学年がドリル・問題集と呼ばれるものを廃止し、生徒が自ら課題を設定し、内容や量を調整しながら進めています。学校では、生徒理解の一環として、家庭での学習習慣や学習内容を認め、励ますようにし、生徒一人ひとりの学びに寄り添い、向き合う時間へと転換しています。「課題を行ったか」だけではなく、「自分に適した内容や方法、量であるか」について、生徒の「自己調整力」育成に向けて、学び方のアドバイスをしながら、進めています。その一つが、今年度より全学年で実施している「自学自習シート・ノート」の活用です。発達段階を考慮し、2学期より始めた学年もありますが、自分自身で課題をもって取り組むことで、目的にあった「学び方」の向上や各教科の見方や考え方の広がりや深まりをもたらし、一人ひとりの可能性を広げるものだと捉え、推し進めています。

次は、生徒が自ら考え、課題を選択し、内容や量を決定した自学シートとなります。これらの提出自学シートは、各学年の先生が中心となり、教室やフロアなど、様々な場所に掲示しています。「算数の計算名人に向けて」「危険生物の謎」「雷はどうしてできるのか?」「上手に歌う方法」など、授業内容と関連するものもあれば、自身が興味あること、また学校行事に向けての自学など様々なものがあります。また、生徒の頑張りを「認める」「褒める」「励ます」コメントを書いたり、声かけをしたりして、生徒とコミュニケーションをとるきっかけとしています。



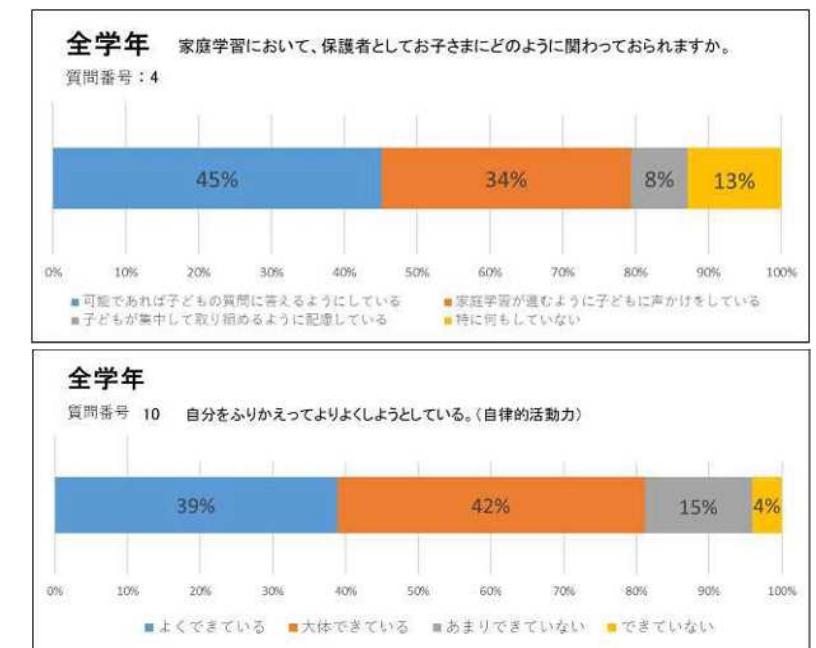
最後に、生徒が「主体的な学びの実現」に向けて、家庭での支援や配慮が大きく影響していると捉えています。家庭学習において「可能であれば、子どもの質問に答えるようにしている」「家庭学習が進むように声かけをしている」「集中して取り組めるよう配慮している」といった、子どもへの関わりが保護者アンケートから見えてきます。

発達段階に応じた関わりを多くの保護者の方にしていただくことで、生徒の家庭での学習習慣は大きく変わります。

しかし、生徒の声に耳を傾けると手放しに喜ぶことはできません。「勉強が計画通りに進まない。」や「上手な勉強のやり方がわからない。」といった声があります。

また、多くの生徒から総括考查後に「もう少し早く勉強しておけばよかった。」や自学自習シート（家庭学習）を行う際に「どのように勉強したら良いのかわからない。」といった声もまだまだ多くあります。生徒たちが持つ学習上の悩みとして、①『学習を進める上で計画を立て、必要に応じてそれらを修正していくこと』②『自らの学習過程を客観的に捉えることができていないこと』③『自分が行っている学習方法の良し悪しを検討し、課題に応じた最適な学習方法を選択することができないこと』がわかります。これら3つの要素が相互作用し働いていないため、生徒は不安感をもちながら学習を進め、自らの学習に対して自信をもつことができないため、学習に消極的な状況が生まれていることが考えられます。しかし、アンケートにある「自分をふりかえってよりよくしよう（自律的活動力）」の項目を見ると、昨年度同様8割を超える生徒が「頑張りたい。」「今以上を目指したい。」という思いが表出されています。これらの思いの達成に向けて、本校では、今後も授業改善及び家庭学習を頑張る生徒一人ひとりの学びに寄り添い、向き合う時間を大切にしたいと考えています。「確かな学力」の育成が、「社会の変化を生き抜く力」の要素の1つとして捉え、生徒の主体性向上、言い換えるのであれば、「生徒の心に火をつける」ことを目指していきたいと考えています。

今後とも、家庭での学習習慣が身に付きますよう、励ましのお声かけなどご協力よろしくお願ひいたします。



2. 「豊かな心」の育成について

○生徒回答結果

	実現度(ベーシックステージ)				実現度(チームステージ)				実現度(ビジョンステージ)			
	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来っていない	出来ていない
楽しく学校生活を送っている。	78%	17%	3%	2%	65%	27%	6%	2%	63%	35%	1%	1%
友だちと協力することを大切にしている。	82%	14%	3%	1%	65%	28%	6%	2%	61%	34%	3%	1%
学校の行事や取組は、小中一貫義務教育学校の特色を生かしていると思う。	74%	19%	5%	2%	53%	38%	7%	2%	53%	43%	4%	0%
他の学年の人とのつながりを大切にしている。(ピア交流活動など)	75%	19%	5%	2%	58%	33%	8%	1%	46%	48%	6%	1%
自分以外の人を大切にし、それぞれの個性を認めるようにしている。	73%	23%	3%	1%	52%	42%	5%	1%	56%	43%	1%	0%

○分析

「他の学年の人とのつながりを大切にしている（ピア交流活動など）」の質問項目では、昨年度と比べて、全てのステージで「よく出来ている」を選んでいる生徒が増加しました。この質問項目は毎年、「よく出来ている」「大体出来ている」の割合が上昇しています。1年生から9年生が在籍する本校ならではの異学年交流の機会を多くもっていることが要因だと考えられます。異学年交流の内容も学校行事などだけでなく、委員会の取組として「こんな交流をやってみたい。」という生徒が主体的に取り組むものが増えてきました。生徒総会でも異学年交流を増やしていきたいという意見も出ており、今後向けた意欲も感じられます。下級生は、上級生をモデルとしてあこがれをもち、上級生は下級生をやさしくリードすることにやりがいを感じることで自己有用感を高めることができていると考えられます。今後も異学年交流の取組を推進していきます。



「自分以外の人を大切にし、それぞれの個性を認めるようにしている。」の質問項目では、昨年度と比べて全てのステージで「よく出来ている」「出来ている」を選んでいる生徒の割合が増加しました。この質問項目は本校が9年間で身につけたい資質・能力の一つである「多様性を受容する力」と関わるもので、これは、人権教育や道徳教育をはじめ、本校ならではの学習であり、「生徒一人ひとりが様々な考え方をもつこと」を大切にしたこころ科の学習の成果だと捉えています。また、昨年度に引き続き、肯定的な回答が多かった「楽しく学校生活を送っている」という質問項目とも関わっています。

生徒一人ひとりの良さが大切にされ、励まし合える仲間がいるからこそ、「学校が楽しい」と感じている生徒が多く、そのような温かい学校・学級だからこそ安心して自分を表現し、他者も大切にしていることができています。ただ、楽しく学校生活を送っていると感じている生徒が多い中、そう感じていない生徒も少しいます。今後も生徒一人ひとりの様子をしっかりと見て、生徒の悩みや思いに寄り添う姿勢を大切にしていきます。

3. 「健やかな体」の育成について

○生徒回答結果

	実現度(ベーシックステージ)				実現度(チームステージ)				実現度(ビジョンステージ)			
	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来っていない	出来ていない	よく出来ている	大体出来ている	あまり出来ていない	出来ていない
学年に応じた寝る時間を心掛けている。 (BS:午後9時 TS:午後10時 VS:午後11時)	45%	22%	14%	18%	30%	21%	30%	18%	19%	20%	27%	34%
学校に行く日は、朝7時までに起きている。	67%	14%	9%	9%	53%	20%	19%	9%	37%	26%	13%	25%
毎日必ず、朝ご飯を食べている。	80%	11%	5%	5%	71%	16%	8%	5%	60%	20%	10%	10%
家や学校で意識して体を動かしたり、運動をしたりしている。	70%	18%	8%	5%	48%	30%	14%	8%	40%	32%	20%	8%
家や学校での食事において、自分の体の成長に必要な栄養や分量を取ることができている。	66%	25%	8%	2%	48%	38%	13%	1%	41%	43%	12%	4%

○分析

「学年に応じた寝る時間を心掛けている」の項目では、ベーシック・チームステージにおいて、「よく出来ている」・「大体出来ている」の数値が、昨年度と比較し低下しています。先日行った生活リズム調べの振り返りのコメントを見る中でも早寝早起きで課題を感じている生徒が多くいました。規則正しい生活習慣においては、日頃よりご家庭でも励ましのお声がけいただいているところですが、今後も引き続きご協力いただきますようお願いします。11月にはすいみん教育での学級活動やすいみん調査を予定しています。生徒自身が自ら進んでより健康的な生活習慣を身に付け、健やかな体や心の育成につながるよう取り組んでいきます。

「家や学校で意識して体を動かしたり、運動をしたりしている」の項目では、全てのステージにおいて「よく出来ている」・「大体出来ている」のいずれかの数値が上がっていました。体力向上コーナーの設置やボール遊びを取り入れたことで子どもたちが運動に親しみを感じたり、朝から元気に外遊びをしたりしている姿が見られます。今後も積極的に運動に親しめるよう、体力向上コーナーやボールの設置等の取組を進めていきます。

